桑名郡多度町

天王平遺跡発掘調査報告

1981

多度町教育委員会

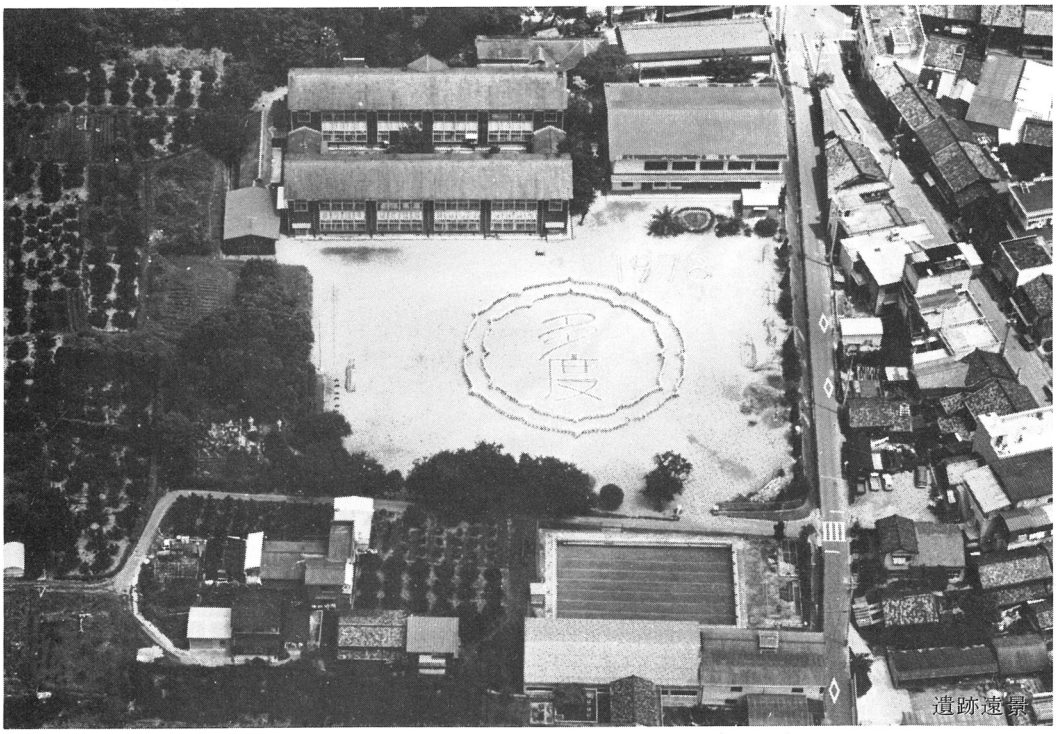
Ⅰ　前　　言

三重の最北部に位置する桑名郡多度町は古くより拓けた所である。多度神社の御神宝をはじめとし、倭姫命の野代宮、日本武尊の尾津浜の故事を伝える古跡もよく知られているところである。また、日本で始めて木簡を出土した遺跡である柚井貝塚の名前も著名である。今回報告する天王平遺跡は、昭和7年、現多度小学校が建設された際に土製土馬が出土し、その後もこの一帯から縄文、弥生土器片をはじめ、土師器、須恵器、中世陶器片が採集されてきた。それらの多くは密柑畑や農地に開墾された際に地表にあらわれたものであり、遺跡の範囲は東西300 m、南北800 mにおよぶ広大なものと考えられている。最近の宅地化の波はこの遺跡の所在する丘陵にもおしよせ、各所に個人住宅が建ちはじめているが、事前の発掘調査も充分に出来ない状況である。一方、多度小学校の老朽化が進むとともに児童数の増加により、現状では満足な学校教育がむずかしくなり、改築の機運が高まってきた。昭和49年には改築をすることが決定し、その場所について、町内の各所が検討されたが、結局、現校舎の西側の畑を削平して、鉄筋三階建の校舎を新しく建設することになった。用地買収もすみ、基本設計も終了した段階をむかえたが、天王平遺跡の取り扱いが問題となった。県教育委員会文化課とも協議を重ねたが、遺跡を現状保存することは不可能であり、事前に発掘調査を実施し、記録保存することになった。

調査は次の体制で行なった。

調査主体　多度町教育委員会（教育長　石川久雄）

調査担当　伊東春夫（桑名高等学校教諭　三重県文化財調査員）



遺跡遠景

調査協力　三重県教育委員会文化課　多度小学校（校長　早川保）
　　多度町歴史研究会（代表　礒貝　豊）
事 務 局　伊藤清隆

発掘調査は、学校建設により削平される個所に 20 m毎に 4 m四方の試掘坑を 8 箇所設け、7 月 14 日～ 16 日にかけて実施した、その結果、丘陵の中腹、標高 25 m前後の南側部分において比較的多数の土器片の出土があったため、この個所を中心に面的に調査を拡張することにした。本調査は 8 月末までつづき、発掘面積は 550 ㎡におよんだ。

Ⅱ　位置と環境

多度町は三重県の北端に位置し、養老山脈の東稜線を境に岐阜県海津郡南濃町に接する。耕地は全体の 25%にすぎず、その多くは海抜 10 m以下であり、揖斐川の沖積作用により形成されたものである。

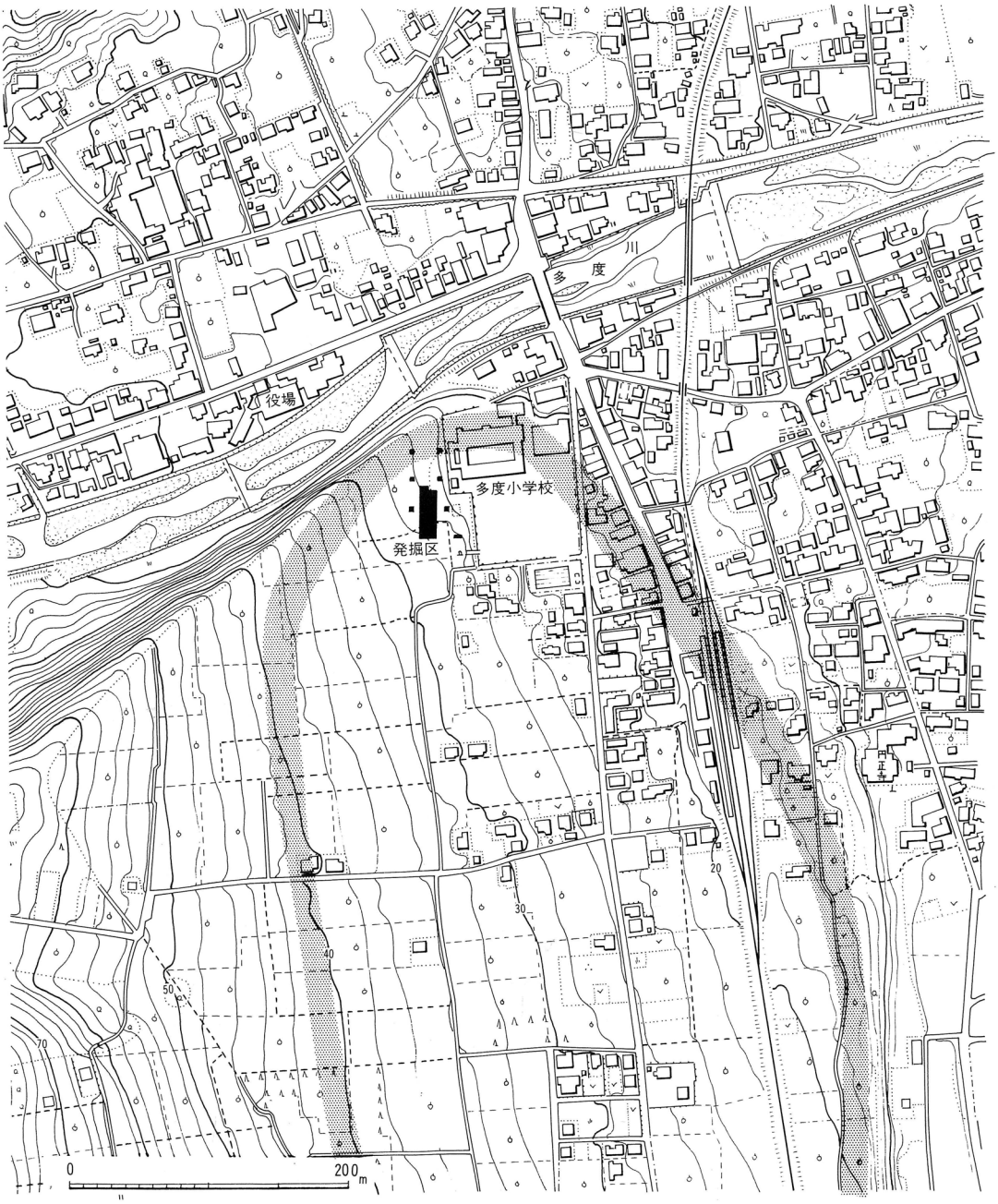
天王平遺跡（24）は、多度町小山天王平、西天王平、尾津平に所在する南北 800 m、東西 300 mにわたる広大な遺跡である。近鉄養老線多度駅、多度小学校を含み、多度川南岸にひろがる低丘陵地の東斜面（標高 10 ～ 50 m）をほぼおおうものである。

町内で現在までに発見、登録された遺跡は 70 にのぼり、縄文時代から現代に至るまで、連綿と人々の生活が続いていることを示している。縄文早期の遺跡には、一ノ谷Ｂ遺跡（54）があり、押形文土器と共にポイントが出土している。他に、多度地内で土砂採取中に発見されたポイントが 1 点ある。弥生時代の遺跡には一の谷

発掘風景

A遺跡（1）があるが、良好な資料は得られていない。古墳時代に入ると遺跡の数も増加し、一ノ谷古墳群（2 ～ 10．56）、宇賀神社古墳群（13 ～ 15）、大久保古墳群（32 ～ 47）等、古墳の数は 34 を数える。なかでも宇賀神社 1 号墳（13）と横山古墳（17）は、規模は小さいながらも前方後円墳であり、円筒埴輪が出土している。

古代寺院跡としては、北小山廃寺（28）、南小山廃寺（29）がある。いずれも奈良時代の寺跡で、北小山廃寺は多度駅の南、旧変電所一帯であるが、住宅が増え、今は平瓦が散見するのみである。一方、南小山廃寺は小山神社の裏に所在し、昭和 9 年開墾時に多量の平瓦と共に、軒丸瓦、鴟尾が出土した。桑名市額田廃寺、四日市々



天王平遺跡地形図（1 ：5000）

智積廃寺が破壊された今、北勢に残された唯一の寺院跡であると言えよう。

奈良・平安期の遺跡として著名なものに、柚井泥炭層遺跡（12）がある。ここからは、多くの墨書土器、木製品と共に、木簡、斎串が出土している。また、多度神社裏の巨石の下からは、経筒と共に30面にのぼる鏡が出土しており、現在、同神社宝物館に所蔵されている。

多度町は、多度神社と共に発展してきたといっても過言ではない。多度神社の起源については不明な点が多いが、続日本紀には、桓武天皇延暦元年（782年）十月多度神を従五位下に叙すとの記載があり、この頃には、かなりの勢力をもつに至っていたことが知られる。また、多度神社と密接な関係にあったと思われる多度神宮寺も、その資財帳（801年）によれば、二基の塔、十数棟の僧房、鐘楼等を備えた大寺院であった。

その後中世末期に至り、多度町には6箇所の城（18・23・30・49・50・52）があり、長島願証寺の一向衆と共に、信長の北伊勢侵攻に抗してきたが、元亀二年（1571年）滅び、多度神社、寺も焼失するに至った。

Ⅲ　遺　　物

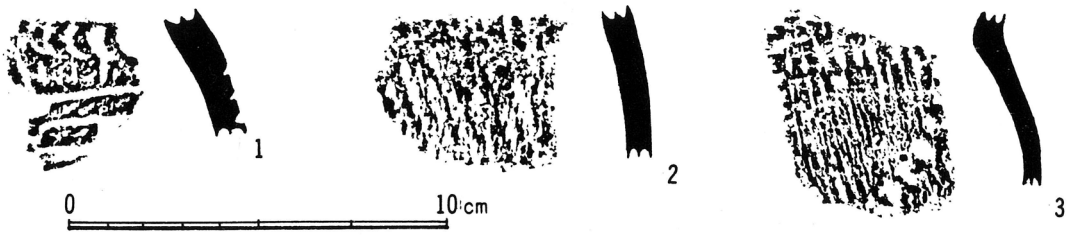
調査面積約550㎡の調査であったが、遺構としては各所に小規模な落ち込みが見られたのみであった。層序は基本的には第Ⅰ層；耕作土、第Ⅱ層；黒色土（遺物包含層）、第Ⅲ層；黄褐色土（地山）である。学校寄りの部分には後世に攪乱された場所も見られた。出土遺物は少なく整理箱数箱で、破片数400片足らずである。その多くは土師器の破片であり、他に須恵器片、少量の縄文土器、灰釉陶器、中世陶器片がある。

○縄文土器（1～3）

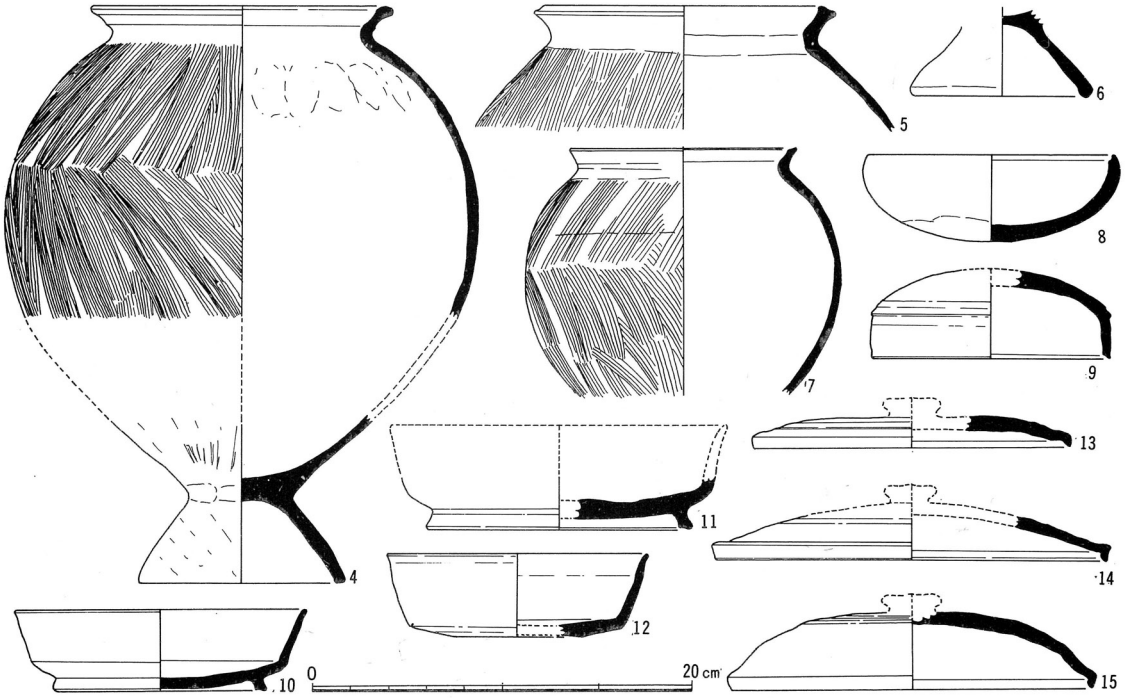
いずれも同一地点より出土したもので、全面に細かい縄文を施したあと、爪形の刺突、沈線を施すものと、楕円の刺突の見られるものがある。いずれも暗褐色、黒褐色を呈し、やや脆弱な土器で、胎土には金雲母、白色砂を含んでいる。縄文時代中期の瀬戸内地方の船元式によく似た土器である。

○古墳時代の土器（4～9）

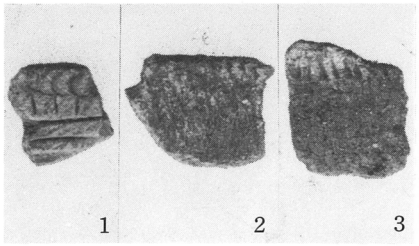
土師器甕（4～7）、杯（8）、須恵器杯蓋（9）がある。甕は口径15cm、器高30cmの大形品と、口径11cmのやや小形のものとがある。いずれも同様のつくりで、

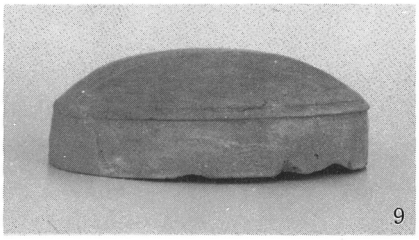


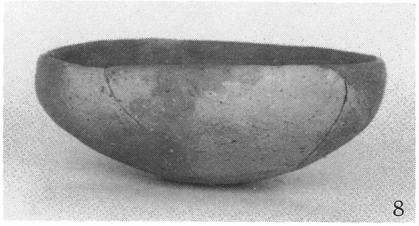
縄文土器（1：2）

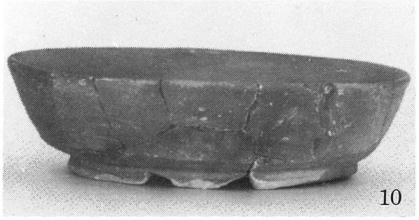


古墳時代・奈良時代土器（1：4）









外反する口縁端部はやや厚く仕上げられ、胴部には上半部に左下り、下半部右下りの粗い刷毛目を施している。脚部は指による押えつけのみの無文である。淡黄褐色を呈し、胎土には細砂を含む。杯は半球状の椀に近い形で、やや厚手で口縁部の内側には一条の沈線が走る。全面をナデツケたあと、底部をヘラケズリしている。淡黄色のやや軟質な土器である。須恵器杯蓋は口縁部が直立し、端部は内側に浅い段となる。天井部は幅広くヘラケズリして丸く仕上げている。灰色を呈する。

遺物出土状況

○奈良時代の土器（10 ～ 15）

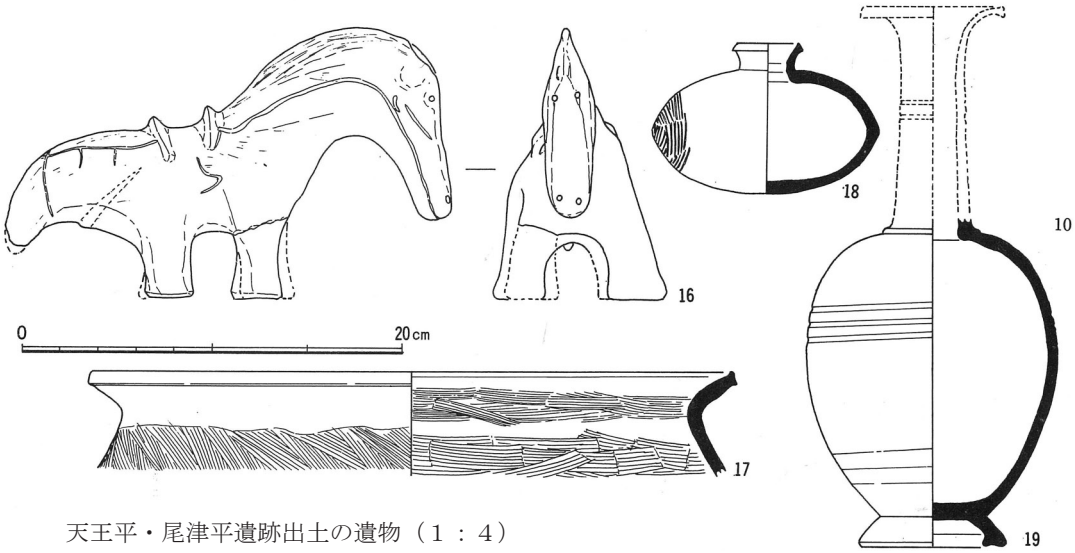
発掘区の南側部分から出土している。須恵器杯（10 ～ 12）、蓋（13 ～ 15）がある。杯はロクロ挽きされた口縁部は真すぐ外方に開き、底部はヘラケズリされるもので、高台が貼付けられるものと、ヘラケズリのままのものがある。11 は赤茶色を呈したやや軟質で焼成の悪いものである。他は暗灰色の焼成の良いものである。12 の口縁部には自然釉が見られる。

Ⅳ　多度小学校保管の遺物

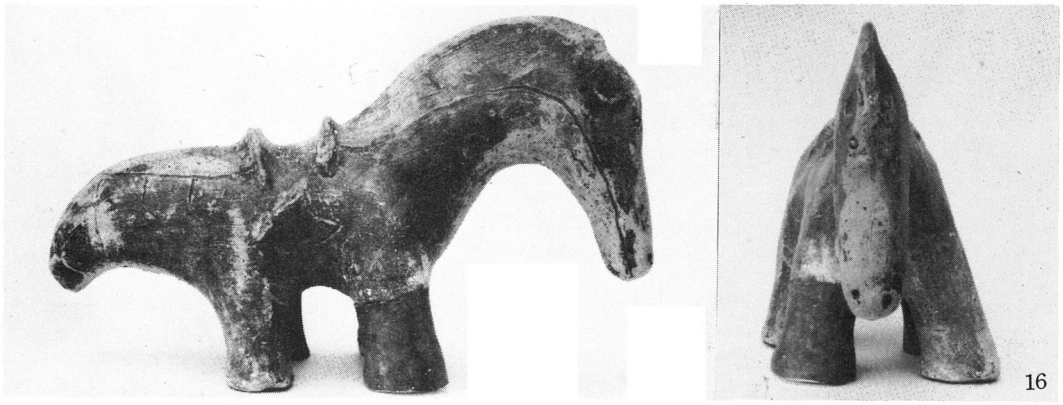
多度小学校には古くより多数の遺物が保管されている。その量は整理箱 10 数箱分、個体数百個体近くある。これらは町内各地で採集されたものと思われるが、注記されたものは少なく、その出土地点が不明なものが多い。しかし、関係者の話や注記から、次の 5 ヶ所の遺跡のものと考えられる。まず、学校周辺の畑地から出土したもので、天王平、尾津平遺跡のもの、次に昭和 12 年 3 月発掘多度村小山加藤信一と注記されたもので、学校の南方 1500 mの個所にあったとされる大久保古墳群出土のもの、一部に柚井と記された柚井貝塚出土のもの、さらに小山廃寺と多度神宮寺跡の瓦と考えられるものである。注記のないものについては断定できないが、中でも柚井貝塚のものが圧倒的に多いと思われる。これらの遺物の中にはめずらしい土馬や墨書土器等もあり、未だ世に紹介されていないものが多く、この機会に報告することにした。

○天王平・尾津平遺跡出土の遺物（16 ～ 19）

土馬（16）、昭和 7 年に出土したもので、右前足、左後足、耳、尾の先端を一部欠損する。全長 23.5㎝、高さ 14.3㎝。頭部は正面より見てやや左に曲っている。胴部の大きさに対し、頭部の大きいもので、顔は先細りの円柱状で、前面を平坦に



天王平・尾津平遺跡出土の遺物（１：４）



ナデツケ、目は円形竹管の刺突、鼻は円形の凹みであらわしている。耳は剥落しており、粘土を貼付けたものと思われる。たてがみは明瞭でないが、ヨコナデでつまみあげられ、断面三角形となる。鞍は前輪、後輪とも粘土紐の貼付けで、その後、前輪から口先までヘラ描沈線によって手綱をあらわしているが、轡は見当らない。目の廻りにもヘラ描沈線が少し見られ、面繋の一部かもしれない。後輪から尾にかけてもヘラ描沈線による尻繋が、鞍の下部には鐙が描かれている。障泥や雲珠は見られない。脚は径 2cm の円柱状で、中央でやや細くなり、大きく外方につっぱるように張り出している。尻の部分から胴中央に斜めに径 0.7cm の穴が深さ 4.5cm にあけられている。全面を細かい刷毛目とナデによって調整している。暗

黄褐色を呈し、胎土、焼成は良い。

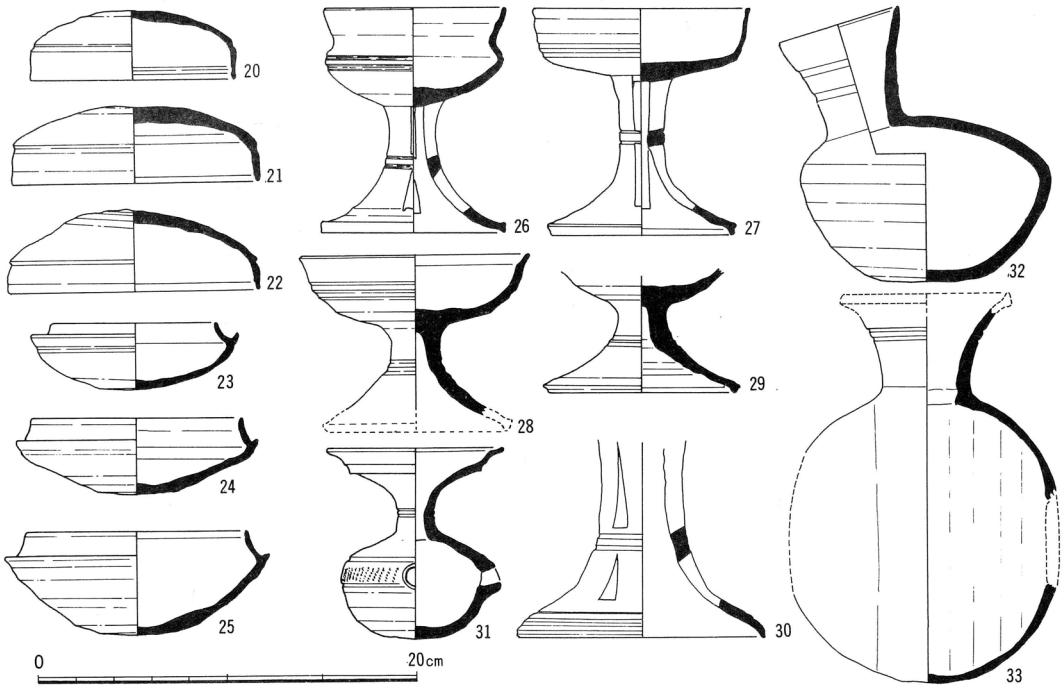
甕（17）　多度駅前道路と注記されているもので、口径34cmの大形の長甕の口縁部破片である。外反する口縁部の端部はつまみあげられたようになり、胴部には内外とも粗い刷毛目が施されている。暗黄灰色を呈する。

横瓶（18）　西天王平と注記あり、口径3.2cm、器高8cmの完形品である。短かい口縁部に長径12cm、短径6.5cmの砲弾形の胴部がつく。胴の一方の端部には叩目が施されている。口縁より肩部にかけ一部分濃緑の釉が見られる。暗灰色を呈する焼成の良い土器である。

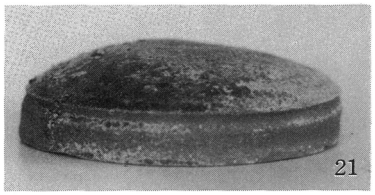
水瓶（19）　天王平伊藤淳次氏恵存と記された口縁部を欠失する胴部のみのもので、遺跡の南端部貝殻谷付近で出土したものと思われる。胴部は卵形を呈し、頸部に低い凸帯が、胴上半部には浅い3条の沈線が巡っている。胴下半部はヘラケズリされ、その後高い高台を貼付けている。茶色をおびた灰色で、灰釉陶器であるが、釉は全て剥落してしまっている。

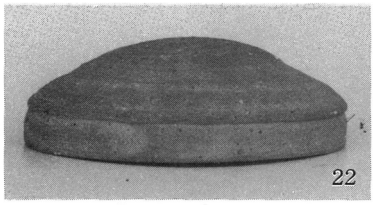
○大久保古墳群の土器（20～33）

全て須恵器で杯（23～25）、蓋（20～22）、高杯（26～30）、瓦泉（31）、平瓶（32）、細頸壺（33）がある。これらのうち21、23、26、32、33には前述の加藤信一氏という注記が見られる。杯蓋は口径11～13cm、器高4cm前後のもので、直立する口縁部の内側は浅い段状となり、天井部にかけての部分も浅い沈線がめぐる。天井部分はヘラケズリされている。灰色を呈し、焼成、胎土とも良い。21には自然釉が見られる。杯は口径に対しやや深い感じのするもので、器厚3～5mmの薄手に仕上げられている。いずれも口縁部が強く内傾する。蓋同様、ロクロ挽きのあ



大久保古墳出土の土器（1：4）


21


22

23

25

26

27

31

28

32

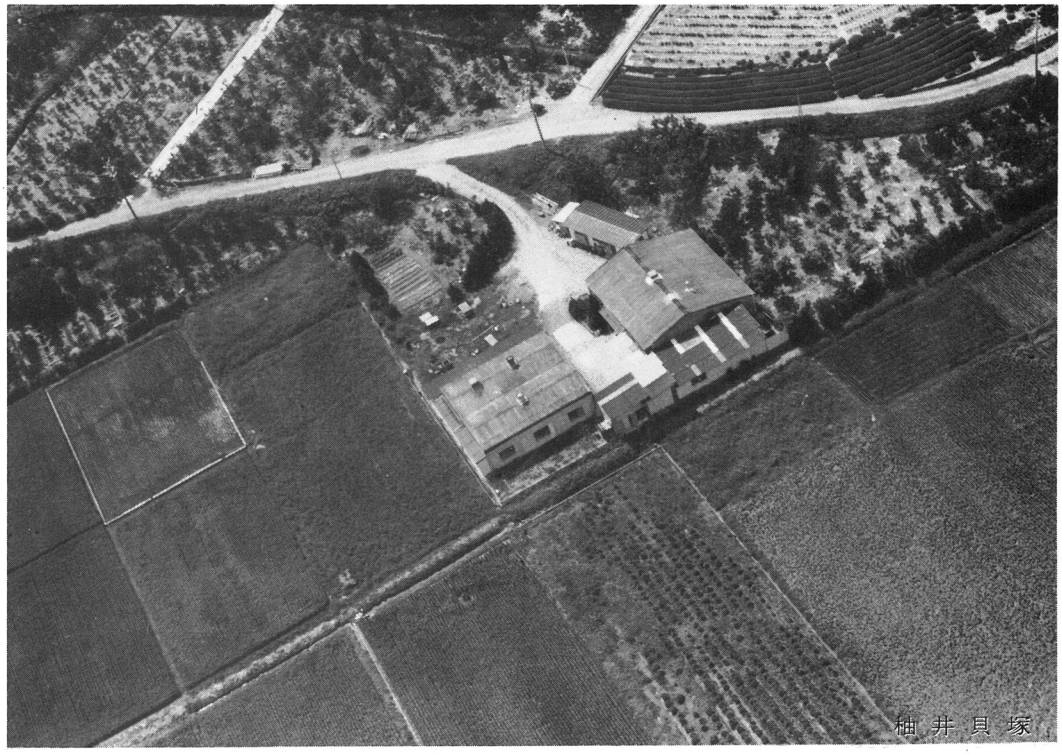
と底部をヘラケズリしている。24の底部にはヘラによる×印が見られる。高杯は長い脚部に二段の透しが2ヶ所あけられるものと、やや短い脚部で透しの無いもの、大形で三方に二段の透しのあるものの三者がある。26は杯部が中央でくびれる鉢形をなし、脚部の下方の透しは三角形である。27は二段とも長方形の透しである。高杯の脚部には中央に全て二条の沈線が巡っている。瑯は大きく二段に開く口縁部に細い頸と小さな胴部からなる。胴中央に突出した孔をあけている。浅い沈線が二条めぐり、その間には櫛状工具の刺突が施されている。白っぽい灰色を呈し、肩部には自然釉が見られる。平瓶は口唇部が僅かに欠失するのみの完形品で、器高14.4cm、口径6.6cm。肩の張る扁平な胴部の肩部分に斜めに口縁部をとりつけたもので、淡い黄灰色を呈する。細頸壺は口唇部、胴部の大部分を欠損する。ロクロで成形された胴部の一方は閉鎖口が見られる。胴部の長軸の一方に口縁部をとりつけたもので、口縁上部には二条の沈線がめぐる。肩部には濃緑の自然釉が見られる。

大久保古墳群は現在16基の古墳が確認されており、その殆んどが破壊されてしまっている。現存しているものについてみると、多くは径10m前後の円墳であり、内部主体は横穴式石室である。土器型式よりみると、その年代は6世紀後半代と考えられる。

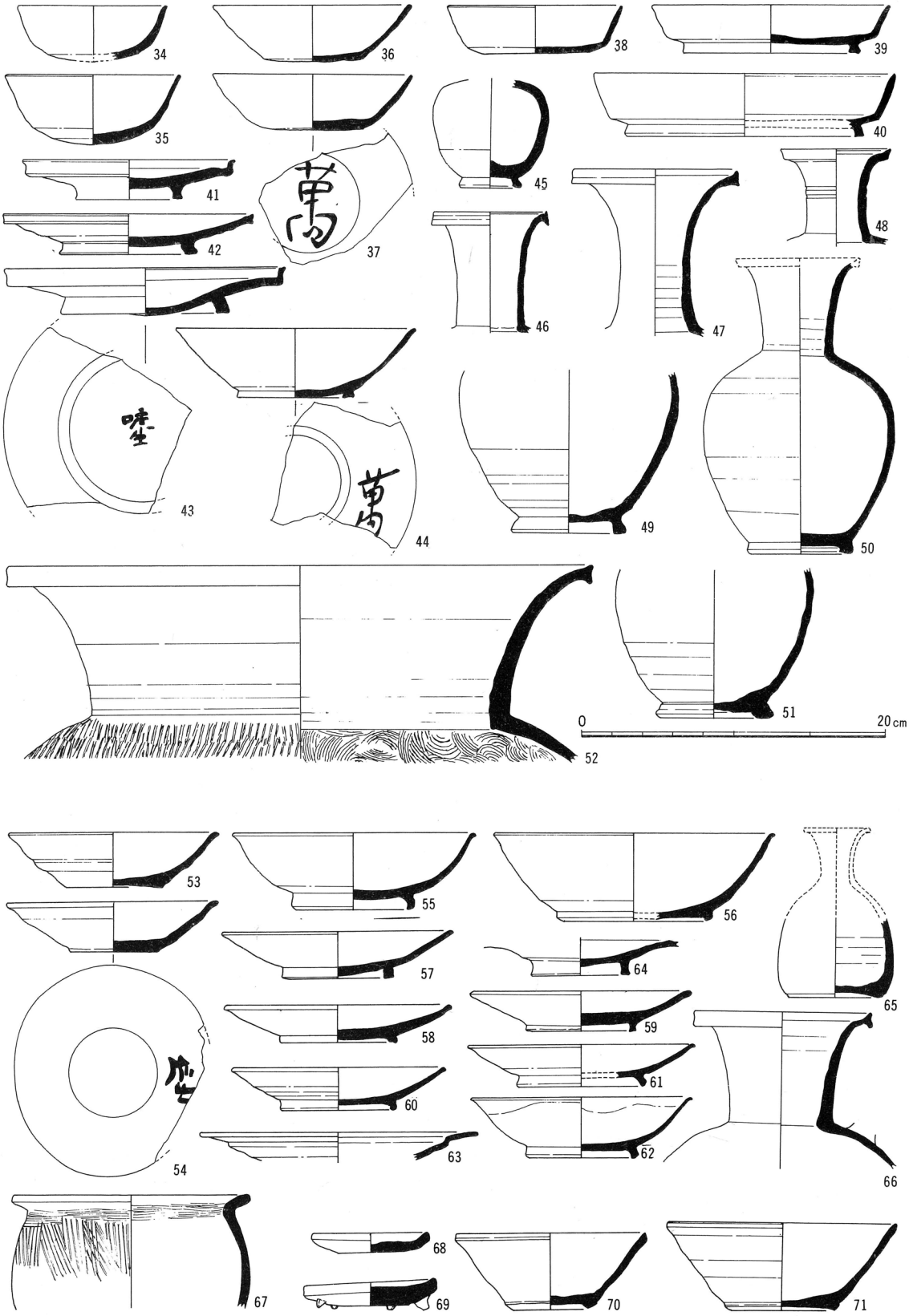
○柚井貝塚（柚井泥炭層遺跡）出土の土器

小学校の保管品の中で最も多く、土器の他に木製品、自然遺物も少なからずある。また、土器の中には35、45、54、66のように明らかに『三重県考古誌考桑名郡多度村柚井貝塚誌考全』に記載されている土器も含んでいる。保管されている土器の殆んどが平安時代に属するものであるが、前半のもの（34～52）と、後半のもの（53～67）とに大別し得る。それは猿投古窯の編年で見ると、9世紀後半頃とされる井ヶ谷第78号窯期を境に鳴海32号窯期から折戸10号窯期を中心とする前半期と、黒笹第14・90号窯期、折戸53号窯期を中心とする後半期である。

平安時代前半のものには須恵器杯、盤、甕、灰釉陶器長頸壺等がある。杯は高台のつくものと、つかないものがあり、高台のつかない杯で34、35、38は底部をヘラケズリするが、36、37はヘラ切りのままである。35の底部には「N」の字状にヘラ描きが見られる。高台のつく39、40は口径に対し浅いもので、いずれもヘラケズリのあと高い高台を貼付けている。44はヘラ切りのままであるが、低い高台を貼付けたものである。37の底部、44の体部には「萬」の墨書が見られる。盤はいずれも口縁部が短かく直立する厚手のもので、厚く高い高台がヘラケズリのあと貼付けられている。42、43の底部にも墨書が見られるが、判読出来ない。長頸壺は全て灰釉が施されるものである。あるいはこれらは平安時代後半に降るものかもしれない。45は厚手の小形品で口縁部を欠失する。肩部に濃緑の釉がかかる。46～48は口縁部の破片で、全面に濃緑、黄緑の釉がかかる。50は口唇部を欠くがほぼ完形品である。ゆるく外反する口縁部に、あまり肩の張らない胴部がつく。胴下半部

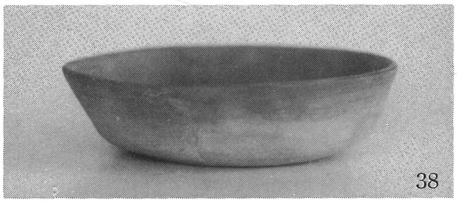


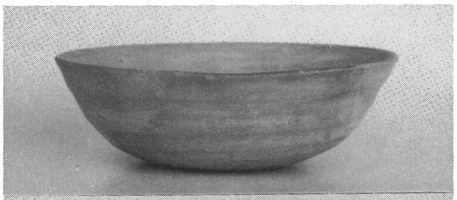
柚井貝塚



柚井貝塚出土の土器（１：４）

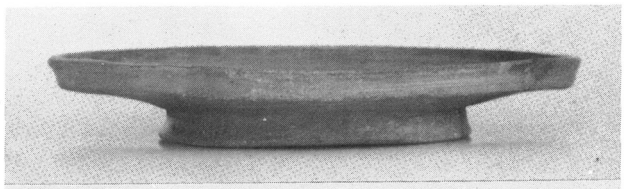
34


38

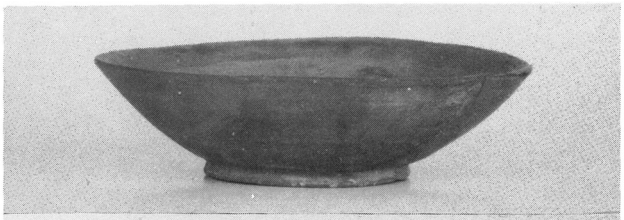


37

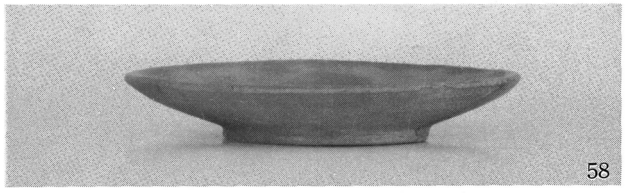
50



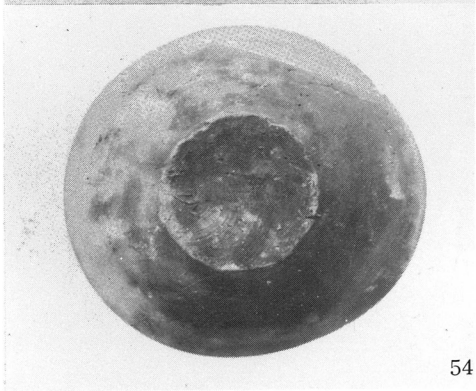
43



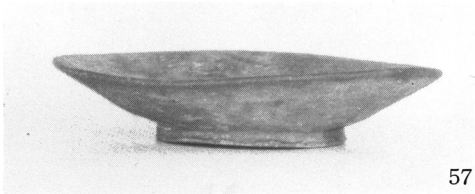
44

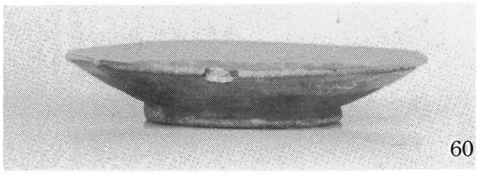

58

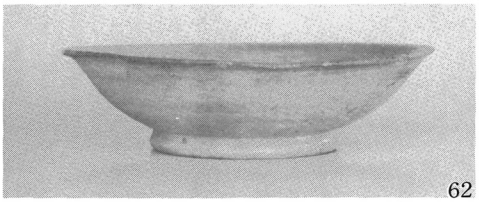
36


54

55


57


60


62

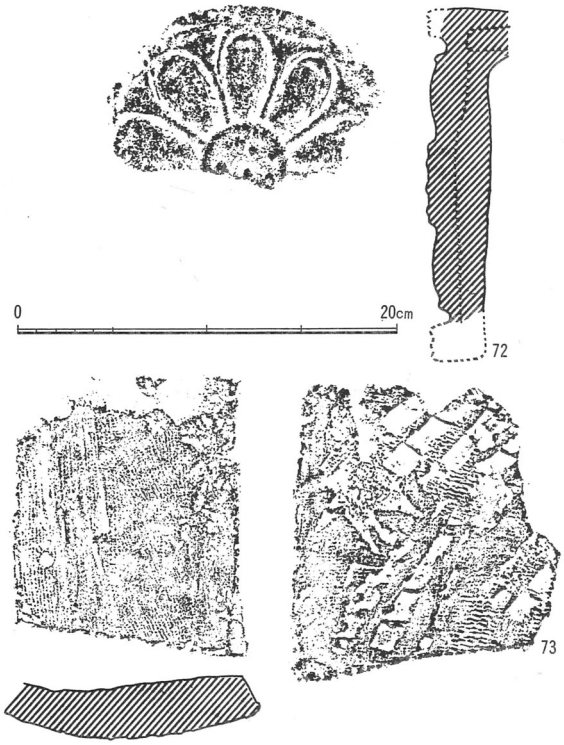
56

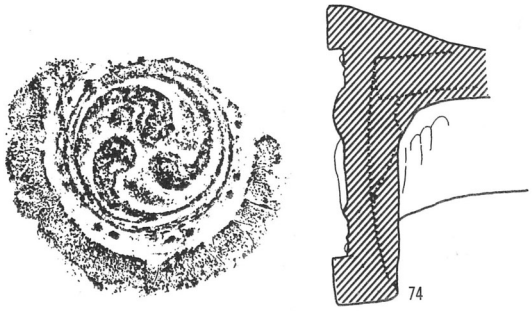
48

70

はヘラケズリされ、高台が貼付けられる。口縁部より胴上半部にかけ緑色の灰釉が厚くかかり、下にいくにしたがいうすくなる。

平安時代後半の土器には須恵器杯、灰釉陶器椀、皿、段皿、小瓶、長頸壺、土師器甕がある。須恵器杯は暗灰色を呈する厚手のもので、53、54の底部は糸切りのままであるが、57はヘラ切りのあと高台を貼付けている。54は口縁部が正円でなく歪んでおり、体部には墨書が見られる。灰釉椀は口縁部がゆるやかに内弯する深いもので、ヘラケズリのあと高台を貼付けている。いずれも灰釉が施されている。55・56は濃緑色で刷毛塗りかと思われるが、62は漬け掛けで自灰色を呈している。55・56には墨が付着している。灰釉皿は厚手のものと薄手のものがあり、いずれも内面に灰釉が施される。段皿も同様である。小瓶は胴部下半部の破片である。表面には濃緑色の灰釉が施され、内面にはロクロ挽きの痕がよくのこっている。灰釉長頸壺は肩部に一ヶ所把手状の突起がのこっている。全面に淡緑の灰釉が刷毛塗りで施されている。66はただ一点であるが土師器の甕である。外反





瓦（1：4）

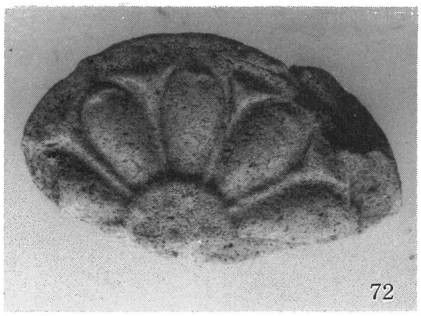
する口縁部は僅かに肥厚するもので、あまり肩の張らない小形品である。胴上半部には粗い刷毛目が施される。全面に煤が付着している。

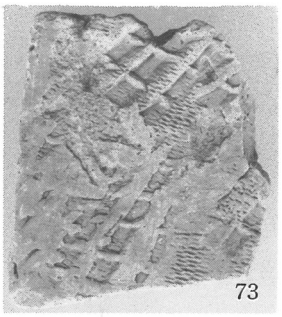
68～71は鎌倉時代に属するものである。68･69は山皿で、糸切痕をのこす厚手の浅いもので、69の底部には5個の脚が貼付けられている。70･71は山茶碗で、底部には糸切痕をのこし、低い高台が貼付けられている。70の高台には籾痕が見られ、内側に墨書があるが判読出来ない。

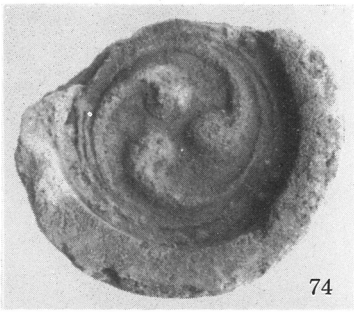
以上の土器の他に曲物の底板、建築部材の一部かとも思われる木製品の破片や獣骨も数点のこっている。

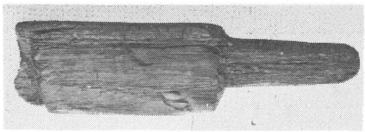
○瓦類（72～74）

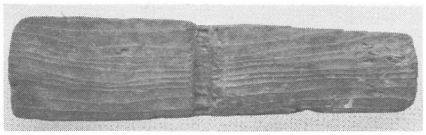
南小山廃寺と考えられる軒丸瓦（72）と平瓦（73）、および神宮寺跡から出土した軒丸瓦（74）がある。軒丸瓦は単弁八葉蓮華文であろう。中房には蓮子が不揃いであるが1＋8を配したものと思われる。瓦当裏面の調整はナデによっている。黄白色を呈し、

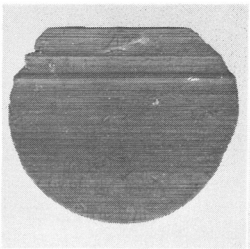


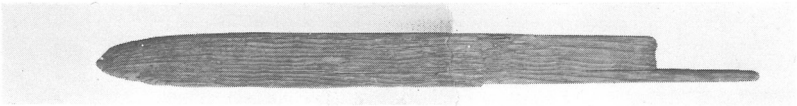












胎土には小石を多く含む。平瓦は凸面は格子目の叩きと縄目の叩きが見られ、凹面は全て布目である。桶巻作りによるもので、軒丸瓦同様黄白色を呈している。
74の軒丸瓦は三つの巴文を配したもので、素緑の内側に二個一対の蓮子を8個所にめぐらしている。白灰色の瓦質のものである。

V　おわりに

今回の調査は小規模なものであったが、これまで天王平、尾津平遺跡としては表面採集された遺物でしか判断出来なかったことが、発掘調査によって当遺跡の実態の一部を把握することが出来た。

当遺跡は縄文時代にその始まりを求めることが出来る。小破片であるが、縄文時代中期の土器の出土は一ノ谷遺跡の押形文土器、ポイントに続く発見であり、けものを追った人々が当遺跡の近くに一時的にせよ住みついたものと思われる。
つづいて古墳時代である。出土した土器は僅かに土師器甕、杯、須恵器杯のみである。甕はS字状口縁土器の伝統をひくものであり、その年代は6世紀前半代と思われる。それは大久保古墳出土の土器群よりやや遡るものである。今回調査した個所の周辺には当時の竪穴住居跡の存在が充分予想される。

その後、この地はしばらく人々の痕跡は認められなくなる。そして、再び、奈良時代の後半頃再びこの地を利用するようになる。古くより出土している土馬も恐らくこの時期のものと思われる。土馬はこれまで当遺跡を含めて県下で12ヶ所の遺跡から出土している。その分布をみると、北勢地方で3ヶ所、南勢の斎宮周辺で9ヶ

三重県土馬出土遺跡地名表

	遺跡名	所在地
1	天王平遺跡	多度町小山字西天王平
2	御衣野遺跡	〃　御衣野字西本
3	大膳寺跡	四日市々南いかるが町
4	鳥居本遺跡	一志町小山字鳥居本
5	—	松阪市山室町
6	斎宮跡	明和町斎宮
7	水池遺跡	〃　明星字水池
8	粟垣内遺跡	〃　馬之上字粟垣内
9	大林古墳	〃　上村字大林
10	カウジデン遺跡	多気町河田字カウジデン
11	—	玉城町上田辺坂手国生神社
12	カリコ遺跡	〃　世古字カリコ

所あり、中勢地方や伊賀、志摩からはまだみつかっていない。当遺跡の土馬を見ると、耳や脚の一部がなく、他遺跡の土馬全ても体の一部を欠損しており完形品はなく、これは恐らく祭祀に用いる際に意図的に打ち欠いたものであろう。土馬は祈晴、祈雨の祭祀に用いられたといわれており、井戸や溝跡から出土する例が多い。今回出土した土器は猿投窯の編年にてらしてみると鳴海32号窯式より折戸10号窯式に求められ、その年代は8世紀後半に比定される。同様に小学校保管の遺物の横瓶、水瓶もまた折戸10号窯式かと考えられる。8世紀後半という年代は多度神社が従五位下に叙せられたと記される続日本紀延暦元年（782年）に近く、あるいは当遺跡も多度神社に何らかの関係があるものかもしれない。これは柚井貝塚からも多数の墨書土器、斎串、舟形木製品といった祭祀遺物が多数出土しているうえ、土器はあきらかに平安時代初期まで遡るものもあり、多度神社とは無関係であったとは思われない。今回の調査では図示出来るものは無かったが灰釉陶器も出土しており、当遺跡はその後も平安時代を通じて存続したものと思われる。

最後になったが、今回の調査に当り多度小学校、同ＰＴＡ、県教委文化課、多度町老人会、町史研究会、町内土木事業所と作業員の方々、そして桑名高校楠皐、桑名市成徳中学校太田元二郎両氏、東京大学北村、筑波大学大川両君等々の各方面団体並びに個人の方々から御指導と御協力を得ることができたことを記し御礼と致したい。また、県文化課の方々には今回の報告書作成に当り、何かとお世話になった。ここに町内関係者と共に深甚の謝意を表したい。

（伊東春夫）

多度町・国・県指定文化財一覧（S54.3. 現在）

	種別	名称	員数	製作年代	所在地	所有者
重要文化財	書跡	紙本墨書神宮寺伽藍縁起 並資財帳（竹帙添）（延暦20）	1巻	平安	多度	多度神社
	考古資料	銅鏡	30面	平安～鎌倉	〃	〃
	工芸品	金銅五鈷鈴	1口	平安	〃	〃
県指定文化財	書跡	紺紙金銀阿惟越致遮経 巻下（中尊寺経）	1巻	平安	下野代	徳蓮寺
	史跡	日本武尊尾津前御遺跡			御衣野	
	天然記念物	美鹿の神明杉			古美・美鹿	
	〃	多度のイヌナシ自生地			多度八壺谷	
	有形民俗文化財	自筆本　桑名日記 〃　柏崎日記	4冊 3冊		香取188	伊東春夫
	工芸品	短刀．銘（表正重、裏多度山権現）	1口		多度	多度神社
	無形民俗文化財	多度神社上げ馬神事			〃	〃
	工芸品	太刀．銘(勢州桑名住藤原勝吉)	1口		〃	〃

多度町遺跡一覧表

No.	種　別	遺跡名	所在地	地　目	時　代	遺跡概況	出土遺物	備考
1	遺物包含地	一ノ谷Ａ遺跡	柚井一ノ谷2062-1	畑・宅地	弥生以降	散布135,000㎡	弥生土器・土師器・須恵器	
2	古　墳	一ノ谷古墳群 1号墳	〃　〃　2045-1	山　林	古　墳	円墳.径8.5m		
3	〃	2号墳	〃　〃　〃	〃	〃	〃.径10.5m.石室	勾玉・金環・須恵器等	
4	〃	3号墳	〃　〃　2005	畑	〃	〃.石室側壁残る		破壊
5	〃	4号墳	〃　〃　2006	宅　地	〃	〃.径8m.石室側壁		
6	〃	5号墳	〃　〃　2007	山　林	〃	〃.径12m		全壊
7	〃	6号墳	〃　〃　2039-2	畑	〃	〃　規模不明		〃
8	〃	7号墳	〃　〃　〃	〃	〃	〃.〃.横穴式石室	勾玉・金環・須恵器	〃
9	〃	8号墳	〃　〃　2079-1	〃	〃	〃.〃.横穴式石室	勾玉・管玉・須恵器	〃
10	〃	9号墳	〃　〃　2082	〃	〃	〃.〃.	直刀	
11								欠番
12	遺物包含地	柚井泥炭層遺跡	〃　一番割485他	畑・水田	古墳～平安	S5.耕地整理の際発見	木簡・木製品・墨書土器等	
13	古　墳	宇賀神社1号墳	〃　宇賀1564他	山　林	古　墳	前方後円墳.後円径17m		
14	〃	〃　2号墳	〃　〃　〃	〃	〃	円墳.径10～13m.高1m		
15	〃	〃　3号墳	〃　〃　〃	〃	〃	〃.径11m.高1m		
16	〃	長尾1号墳	〃　長尾1952	〃	〃	〃.径10m		半壊
17	〃	横山古墳	〃　一ノ谷2021-4	畑	〃	前方後円墳.長28m	高杯	全壊
18	城　跡	柚井城跡	〃　城ノ腰	畑・宅地	室　町	所在地不明	直刀・埴輪・土師・須恵	
19	墳　墓	愛宕墓址	多度・西城・長尾	山　林	鎌倉～室町	散布100,000㎡		消滅
20	寺院址	多度神宮寺跡	〃　山下1613 他	山林・宅地	平安～室町	面積4,900㎡	骨壺・五輪塔石仏	
21	経　塚	多度経塚	〃　宮地	山　林	平　安	大岩のすき間に経筒片	五鈷鈴・瓦	
22	〃	八壺谷経塚	〃　八壺谷1721	宅　地	〃		和鏡	
23	城　跡	多度城跡	柚井西城1746-1	山　林	室　町	130×180m		
24	遺物包含地	天王平・尾津平遺跡	小山・天王平・尾津平 西天王平	畑・宅地	縄文～鎌倉	800×300m.竪穴住居址	土馬・縄文・須恵・灰釉等	
25								欠番
26								〃
27								〃
28	寺院址	北小山廃寺	小山・尾津平・尾津崎		奈　良	南北100m.東西50m	軒丸瓦	
29	〃	南小山廃寺	〃　中ノ谷2716他	畑	〃	南北75m.東西75m	鴟尾片・軒丸瓦・須恵器	
30	城　跡	小山城跡	〃　貝殻谷2667-1他	山　林	室　町	70×70m		
31	祭祀跡	諏訪神社遺跡	北猪飼寺山475他	畑			瓷器片	
32	古　墳	大久保古墳群 1号墳	小山大谷2778他	〃	古　墳	円墳.石材残る		全壊
33	〃	2号墳	〃　西塚原9022	〃	〃	〃.石室		〃
34	〃	3号墳	〃　〃　901	〃	〃	〃.〃		〃

35	古　　墳	4号墳	〃　〃　886	畑	古　墳	円墳	須恵器杯片	全壊
36	〃	5号墳	〃　〃　890-1他	〃	〃	〃．石室		〃
37	〃	6号墳	〃　〃　891	〃	〃	〃	鏡	〃
38	〃	7号墳	〃　〃　903	〃	〃	〃	須恵器高杯・壺	〃
39	〃	8号墳	〃　大谷2754	山　林	〃	〃．径15m．高2.5m		半壊
40	〃	9号墳	〃　〃　2753	〃	〃	〃．石室		〃
41	〃	10号墳	〃　西塚原70	畑	〃	〃	横瓶	全壊
42	〃	11号墳	〃　大谷2751	山　林	〃	石室		〃
43	〃	12号墳	〃　〃　52-1他	畑	〃	〃	須恵器杯・高杯	〃
44	〃	13号墳	〃　〃　749-1	山　林	〃	〃．天井石残る		〃
45	〃	14号墳	〃　西塚原995	〃	〃	〃		〃
46	〃	15号墳	〃　〃　1018他	〃	〃	〃．径10m．高1m		完存
47	〃	16号墳	〃　〃　〃	水　田	〃	〃		
48	遺物包含地	西塚原遺跡	〃　〃　〃	〃	平　安		天聖元宝・須恵器椀	全壊
49	城　　跡	猪飼城跡	北猪飼東山62他	畑	室　町	25×75m		
50	〃	大鳥居城跡	大鳥居					所在地不明
51	遺物包含地	星島遺跡	御衣野星島2770	水　田	古　墳	散布1,200㎡	須恵器杯	
52	城　　跡	御衣野城跡	〃　西谷2194-1	山　林	室　町			全壊
53	祭祀跡	御衣野遺跡	〃　〃　168-3	〃	古　墳		土馬・須恵器	〃
54	遺物包含地	一ノ谷B遺跡	柚井一ノ谷2045-4	畑	縄　文		ポイント・縄文早期土器	
55	墳　　墓	一ノ谷墓址	〃　〃　2039-2	〃	中近世		骨壺・五輪塔・石仏	
56	古　　墳	一ノ谷10号墳	〃　〃　2007	山　林	古　墳	円墳．径12.5m．高1.5m		完存
57	〃	長尾2号墳	〃　長尾1928	〃	〃	〃．径15m		全壊
58	遺物包含地	西城遺跡	〃　西尾1746-1	畑	縄　文		土師・石器剥片	
59	墳　　墓	尾津平佐軍神社遺跡	小山尾津平1734	道路敷	平　安	積石塚か	須恵器	
60	〃	西天王平遺跡	〃　西天王平2098-3	畑	〃	耕作の際発見	須恵器横瓶・瓷器	全壊
61	遺物包含地	大谷遺跡	〃　大谷2748	山　林	平安～鎌倉		瓷器片	
62	〃	西塚原遺跡	〃　西塚原1018	〃	古　墳		須恵器片	
63	古　　墳	西谷古墳	御衣野西谷2139-10	〃	〃	円墳．径15～18m		
64	遺物包含地	金ヶ谷遺跡	〃　金ヶ谷3662-2	畑・宅地	鎌倉～室町	宅造の際発見	骨壺・山茶碗	
65	〃	下野代遺跡	下野代城之下　他	水　田	平安～室町	耕地整理の際発見	土器・瓷器片	
66	経　　塚	沢地経塚	力尾沢地57-3	山　林		伝承地		
67	遺物包含地	長尾遺跡	柚井長尾1937-1	畑	鎌　倉		宋銭・山茶碗	
68	〃	西谷通遺跡	小山1129	畑・水田	古墳～鎌倉	200×200m	須恵器・山茶碗	
69	古　　墳	八壺谷古墳	多度八壺谷1718	山　林	古　墳	円墳．径9m		
70	古　　墓	〃　古墓	〃　〃　〃	〃	平　安		須恵骨壺(1)	

1:25,000
500m
0
500
1000
1500
奥条分
万条
山除川
古敷
平賀
西福永
福永
琵琶池
柚井
神合
宮田
多度神社
多度
北小山
近畿日本鉄道
三戸津
香取
多度川
赤沢川
中須
肱江
小山
北猪飼
猪飼
力尾
御衣野
採土場
下野代
上深谷部
1
2~5
6
7
8
9
10
12
13
14
15
16
17
18
20
21
22
23
24
28
29
30
31
32~38
39~44
45
46
47
48
49
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70